



定夫さんの図嚢(ずのう)とトランク



▲黒竜江省での落盤事故で大けがをした時、輸血をしてくれた看護師さん(右端)に91年に再会をした定夫さん(中央)

◀三波春夫さんから贈られたカセット全集

に抑留)とは戦後も親しく交友し、贈られたカセット全集が楽しい思い出となっている。落盤事故で大けがをした時、輸血をしてくれた看護師さんに42年ぶりに再会した懐かしい写真もある。

裕徳さんは「今なら誰でも、戦中の記憶を持っている人が身近にいるだろう。それを聴き取って残すことが必要」と言っている。1942年生まれの記事にも「この記事の中に、あなたの記憶も掲載するように」と宿題を与えられた。※

3回招集された

青木義太郎陸軍兵長



名張市職員で郷土史家の山口浩司さん(57)は、赤目遺族会の戦歴資料に載る、フイリピン・コレヒドールで昭和17年4月に戦死した地元の青木義太郎陸軍兵長について語った。

「この兵士は壮烈な戦死の経緯が報告されており、勲功により比島方面総監より個人感謝状を授与され、陸軍省より功績が公表された。盛大に村葬が行われ、顕功碑が建立され銅像が立った。戦果を上げている初期には、このような顕彰も行われたが、徐々にそんな余裕も無くなっていた。」

青木兵長は昭和9年1月、1回目の召集を受け満州チチハルに。翌年12月除隊。昭和12年9月、2回目の召集で中支方面を転戦。昭和14年2月に除隊。昭和16年7月、3回目の召集を受け翌年4月戦死した。25歳だった。」

◎市役所が戦没者慰霊祭を行う意味

「戦死した人夫々に場面があり、夫々の遺族会が、地域を挙げて慰霊祭を行っているが、名張市が戦没者慰霊祭を毎年行っている意味について話したい。召集令状が届けられる人は、役所が推薦状を書いてその人を推したからで、名張市には地元の若者を

戦場に送り出した責任がある。最近忘れられがちだが、役所が慰霊祭を行う意味を改めて認識いただきたい。若い人にも知って欲しい」と話した。

青木義太郎さんは、役所が3度も召集令状該当者として推薦したのか。：丈六寺の戦没者慰霊碑は立派な台座の上に聳えるように立っている。傍に銅像がある。行動する等身大の兵士の像だ。隣に立つと、親しみを感ずる思わず「兵隊さん！」と声をかけたくなる。

記憶を次世代に伝えるために

「平和の集い実行委員会」会長の耕野一仁さんは、神戸を空襲したB29が青蓮寺山中に墜落した時、地藏院境内では、父で当時住職の耕野一弘さんと母の申子(のぶこ)さんが墜落の様子を見ていた。火を噴きながら低空を飛ぶ大きな機体の熱を身を感じたと言う。このときに機体の番号が書かれた破片が境内に落下し、一弘さんはこれを本堂に安置して供養を続けていた。名張では1181人、青蓮寺地域でも36人がこの大戦で戦死している。そのことを考えると、父親が続ける供養に疑問を感じていた。それを言うのと「人の命に敵味方の区別はない」という一弘さんの言葉を聞いた。「戦後年数が経って、父の意志を継ぐ決心をし、追悼碑の建立を思い立ったときにも地元の人はどう思うかな?と考えていた。そのときの区長さんも、父親が戦死していた。『父が亡くなったのは南方諸島やフイリピン諸島。そこで追悼碑を建ててくれたら嬉しいやんか』と言っていた。夢にも思わなかった。有り難かった」と語り、「世界中では、さまざまな戦争や紛争が続いている。戦争の悲惨さを次世代に伝え、命や人権の尊さを子ども達に伝えて行きたい。どうにかして子ども達に参加して貰うのがこれからの課題」と話して会を結んだ。

※橋本裕徳さんの宿題に添えて

「幼児から小学生の戦中戦後」

私は1942(昭和17)年11月23日大阪生まれですが、終戦の年は2歳で伊勢市にいました。ある夜、誰かの背中に背負われて、家の玄関から外を見に行きました。たくさん光が次から次に雨のよう空から落ちてくるのを見ていました。1945年7月の伊勢市大空襲のことで、幼児期の初めての記憶です。この家も焼け落ちました。背負われていた誰かの背中ですが、後年母の話では父親だったようです。この年10月に父親は病没しましたので、唯一の父親の記憶です。

その後大阪の母の実家に行きましたがその家も焼け出されて、借家住まいでした。大阪は猛烈な食糧不足。母は着物を持って農家に行き、お米と交換して貰ったようです。私は栄養失調で餓死寸前、歩けようにならなかったのに、再び這って来たそうです。あるとき楽しみにしていた晩ご飯が、お椀の中にサツマイモの短いツルが2本浮いているだけでした。幼児ながら不服でこれご飯?と訊ねて、「仕方ないやないの!」と母に叱られたことを覚えています。幼児期の2番目の記憶です。

その後母が大阪の造船所に事務員として働くようになりました。子どもが自由に会社に入って行ける長閑なところでした。中国から復員した男性も同じ職場にいました。あるとき「助けてくれ、と手を合せて祈るばあさんを斬り殺しました。その他にも、人を殺したり、銃剣で脅して食べ物強奪しました。毎夜布団に入ると、そのことが頭に浮かび、夢に見たりして、寝られへんです」と話しているのを母の傍で聞いていました。このように話す人は稀で、復員してきた人が、戦争のことはひとことも話さず、大酒を飲んで乱暴するなど人間が変わってしまった話を聞きますが、戦時のトラウマは本当に気の毒なことだと思います。

小学校は1クラス60人で13組ありました。給食が始まり、脱脂粉乳を水に溶かした薄いミルクとコッペンでした。このミルクを不味いと言っている級友もいましたが、ろくなものを食べていない私には美味しくて大好物でした。今回はこれぐらいにしておきます。続きは次の機会に…。